

こんにちは。台湾



台湾交流事務所開設式典の出席者のみなさん（台湾では写真を撮るときにグーポーズをするのがメジャーだそうです）

台湾交流事務所を開設

平成30年8月23日、台北市内にあるアンバサダーホテル台北（国賓大飯店）で笠間市の台湾交流事務所開設式典が行われました。

式典には、約140人の関係者が出席。日本側からは日本台湾交流協会（国交のない台湾における大使館の役割を有する）の沼田代表、茨城県知事のメッセージを携えた国際観光課長をはじめとした県職員、桜川市長など県西市長会の7市長、笠間市台湾インバウンド推進協議会の会長および会員が出席しました。

台湾側は行政院農業委員会（日本の農林水産省に相当）農糧署の胡署長をはじめとした政府関係者や台湾ゴルフ協会の王会長、メディアおよび旅行会社の関係者など多くの方々が出席され、笠間市に対する期待の大きさを感じました。

事務所は台北市の中心に位置し、インバウンド関連で連携協定を締結した東豪旅行社の一角に開設され、市職員1名を派遣するとともに、現地で1名を採用して2名体制で運営していきます。



左から、沈専門員（台北市長代理）、胡署長（行政院農業委員会農糧署）、王会長（台湾ゴルフ協会）、山口市長、沼田代表、海老澤市議会議長

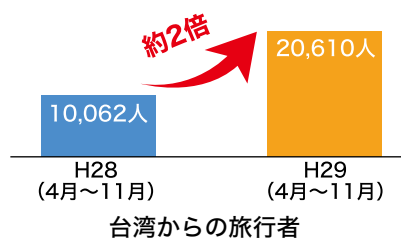
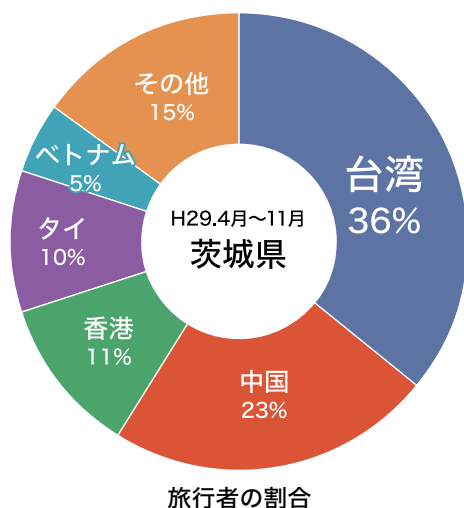


県西市長会のみなさん。
左から、針谷市長（古河市）、神達市長（常総市）、須藤市長（筑西市）、山口市長、前場市長（結城市）、沼田代表（日本台湾交流協会）、大塚市長（桜川市）、菊池市長（下妻市）、木村市長（坂東市）



式典には、たくさんの台湾メディア、台湾旅行業者の方が駆けつけました。

茨城県の海外からの周遊ツアー動向



平成29年の台湾から茨城県への周遊ツアー旅行者は4月から11月までの前年同月比で204.8%と増えていて、国別の割合は36%とトップ。

台湾からのインバウンド（訪日旅行）は今もっとも重要視されていると言えます。

台北市紹介

日本最西端に位置する沖縄県与那国島と約100キロメートルしか離れていない台湾の首都。面積は約272平方キロメートル、人口は約270万人で、アジア屈指の大都市です。

日本との時差は1時間。亜熱帯気候が特徴で、1年を通して温暖な気候です。



これまでの経緯

平成27年～	茨城県国際観光課に職員を派遣、東豪旅行社（台北）との連携が始まる
平成28年 7月	台東大学・台湾行政院農業委員会の職員7名が来訪（農業・地域産業視察）
平成29年 3月	市長ほか3名が訪台 台湾ゴルフ協会会長、台湾行政院農業委員会主任秘書（農林水産省事務次官に相当）を表敬訪問
6月	台湾から農業者や農産加工業者16名が来訪（6次産業化・食育視察）
7月	産業経済部長ほか2名が台北駐日経済文化代表処を訪問 市長ほか1名が訪台 台湾ゴルフ協会会長を訪問
9月	台湾ゴルフ協会会長と台湾の各ゴルフ場支配人47名が来訪（オリンピック事前キャンプ地として市内ゴルフ場視察）
12月	台湾文化部長政務次長一行が来訪 市長が台北駐日経済文化代表処代表を表敬訪問
平成30年 2月	東京オリンピックゴルフ競技で台湾のホストタウンとして笠間市が登録
3月	茨城空港と台北（台湾）を結ぶチャーター便が運航開始
4月	笠間市台湾インバウンド推進協議会設立
8月	笠間台湾交流事務所開設



平成30年4月
東豪旅行社によるツアー

台湾から約20名が参加。笠間稲荷神社や門前通り、酒蔵の須藤本家などを巡り笠間の歴史や文化などを体感しました。



平成30年7月
台湾メディアによる取材

台湾の多くの方が、着物や浴衣を着て日本を満喫したいと思っていることから、浴衣姿で市内の取材を行いました。

台湾の関係省庁を訪問

開設に先立つ22日には、行政院（内閣に相当）に属す文化部と中華オリンピック委員会を表敬訪問。

文化部では丁曉菁（ティンシャオジン）政務次官と、中華オリンピック委員会では宋守智（ツァンソウジ）副秘書長とそれぞれ面会し、お互いの発展に向けた活発な意見交換をしました。

※文化部は、文化政策および伝統文化の発揚に関する行政を担当する行政機関。



右から、丁曉菁政務次長（副大臣に相当）、山口市長



右から、宋守智副秘書長、山口市長



台湾交流事務所前にて（右から東豪旅行社 陳社長、山口市長、東豪旅行社 廖会長）

笠間市長 山口伸樹 × 東豪旅行社社長 陳東隆
やまぐち しんじゅ チン トウ リュウ
 山口伸樹 × 陳東隆
 Special Interview

笠間の魅力を いまこそ 世界に発信するとき

台湾とのつながりについて

（山口市長）日本と台湾は正式な国交はありませんが、これまで親密な関係を築いてきました。昨年の訪日外国人旅行者は、台湾が、韓国、中国に続いて第3位であり、たくさんの方が来日されています。

これまで台湾との交流は友部ライオンズクラブや笠間ロータリークラブなど民間団体が主に行ってきました。

笠間市でも茨城県国際観光課に職員を出向させて、県と連携しながら台湾に向けてPRを行ってきました。その結果、平成27年頃から東豪旅行社（陳社長）などの台湾旅行業者が、ゴルフ客をはじめとした観光客を茨城県内に誘客しはじめ、その一部が笠間市にも訪れて来るようになりました。

現在、茨城県内への訪日外国人旅行者は、台湾からの方が第1位となっています。

また、平成30年2月に笠間市は、文部科学省に2020年東京オリンピックにおけるゴルフ競技の台湾ホストタウンとして登録されました。

このような経緯があり、笠間市は台湾とさまざまな分野で交流を図る拠点として事務所を設置することにしました。

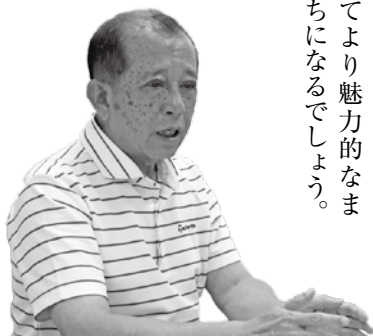
台湾交流事務所に 期待することは

（陳社長）これまでの連携を通じて、笠間市のまちの雰囲気やおもてなしのレベルの高さに満足しています。

台湾交流事務所は笠間市だけでなく、茨城県全体のインバウンドを盛り上げる大きなきっかけになると確信しています。

茨城県には笠間市の笠間稲荷神社をはじめ、ネモフィラで有名な国営ひたち海浜公園、水戸市の偕楽園など名所も多く、茨城県全体を視野に入れることで非常に魅力的なツアーが組めると考えています。

インバウンドにはその地域でしかできない、「特別な体験」「特別なおもてなし」がポイントです。笠間稲荷神社の周辺は和服が似合う街並みです。日本らしい体験ができれば、台湾から見てもより魅力的なまみちになるでしょう。



台湾交流事務所を情報発信の拠点に

今後の取り組みは

（山口市長）笠間市では、台湾から訪日する方のさまざまなニーズに対応するため、受け入れ体制の充実にも力を注いでいます。

今年4月には、笠間観光協会や笠間市商工会など26団体による、「笠間市台湾インバウンド推進協議会」を設立し、台湾からのお客様をもてなす体制を整備する環境を整えたところだ。これにより、「満足して、いい思い出をつくっていただけ」のサービス、ひいては「また笠間市に来たい」と思っていただけのようなサービスを提供していきたいと思っています。

これからは、台湾交流事務所を通じて、さらなる笠間市の魅力を台湾の皆さんにお届けしていきます。そして茨城県や周辺市町村とも連携して誘客に努め、3年を目途に結果を出したいと思っています。



笠間市台湾インバウンド 推進協議会長あいさつ

笠間市台湾インバウンド推進協議会は、台湾からのお客様をしつかりとおもてなしができるよう受け入れ体制を整えるため設立されました。

2年後の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、訪日外国人旅行者の取り込みを如何にするかは大きな課題です。インバウンドの増加で想定されるさまざまな課題を協議会の中で共有と蓄積ができれば、課題解決に向けて具体的な対応がとれるようになると思います。

単にものを販売するのではなく、日本の文化、笠間の文化を発信することが大切です。和服姿で笠間稲荷門前通りを散策してもらったり、ろくろ体験で笠間焼に親しんでもらったり、付加価値を感じていただくと同時に、お互いを理解し、深めていくことで、地域経済の活性化につなげていきたいと考えています。



笠間市台湾インバウンド推進協議会のみなさん

ふくながしんいち
福永信一さん（写真右）

- ・笠間市台湾インバウンド推進協議会会長
- ・笠間工芸の丘株式会社 代表取締役

開設式を終えて

台湾交流事務所開設のオープニング式典を無事終え、いよいよ事務所運営がスタートします。

事務所では、笠間市の認知度向上を図り、観光客の誘客や文化教育面での交流、工芸品や特産品等の販路開拓支援、さらには東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンペーンなど幅広い分野での支援を行えるよう取り組んでいきます。

茨城県の市町村では、台湾に駐在員事務所を置くのは初めてで大変なことありますが、茨城県国際観光課への出向時に得た経験と人との繋がりをいかして業務を進めていきたいと思っています。

市民の皆さんもぜひ台湾にお越しいただき、その際には、当事務所へお声がけください。よろしく願います。

▼笠間台湾交流事務所 住所
台北市大安區安和路二段78號8樓



きのした ちか
木下知香さん
・台湾交流事務所 駐在職員

【問い合わせ】秘書課（内線225）